

## とうもろこしの不耕起栽培



5/24

ライ麦を押し倒し、とうもろこしを定植。不耕起、無農薬・無化学肥料栽培



6/30

押し倒したライ麦がマルチとなり、雑草が生えづらい



7/28

有機質堆肥のみの施肥なので、生育は少し遅い。土はふかふかして柔らかい

## 有機栽培と不耕起栽培の比較試験

三本松市



4/17

ライ麦を刈った後に不耕起で野菜苗を定植。食べる人と作る人が教えあひながらの共同作業



5/22

不耕起区は再生するライ麦を刈り敷いている  
有機区は堆肥だけでも生育良好、昨年まで耕作放棄地だったことも影響あると思われる



6/10

不耕起は有機区に比べ生育は遅いが、レタスの食べ比べでは苦みが少ないという意見もある  
有機区は半分は収穫済み。畝の間には大麦がリビングマルチとして生育している

## かぼちゃの不耕起栽培

南相馬市



6月上旬

ライ麦を押し倒し、かぼちゃを定植。雑草が抑えられ、わらを敷く労力が軽減される

雑草が抑えられ、収穫時の労力が軽減される



7/26

# 食べる人と作る人の共同で アグロエコロジー実践を進めよう！

## ポストコロナへの教訓

コロナ危機を経験し、食料主権を基本に据えた農政への転換、気候危機の中で持続可能な農業に転換する大きな流れを作っていくことが求められています。そのカギを握るのがアグロエコロジーの推進です。アグロエコロジーは、生態系の力の活用や「伝統知」に依拠した農法で、環境への負荷を減

## 持続可能な農法への転換

環境保全型農業は、不耕起・省耕起、植生や有機物による地面の被覆、不定期な輪作、混作を基本としています。環境保全型農業により、農地は土壌炭素濃度を高め、収量増加につながり、農業や施肥量の削減に繋がります。

植物は根から、糖、アミノ酸、ビタミン類などの栄養物が分泌されるため、それらを求めて多くの微生物が集まります。集まった微生物は、植物から栄養を受け取る見返りとして、土壌中の窒素やリン酸などを植物に供給する共生関係を築いています。陸上植物の根に侵入して菌根と呼ばれる構造物を形成する菌根菌は、共生菌の代表です。この共生関係により、病

らすとともに、農民の生活や営農への支援、政策決定への参加を後押しすることで社会的公正を実現する、環境にも社会にもやさしい食と農のあり方です。食べる人と作る人の共同の学習や、取り組みを通じて持続可能な農業・農村を目指すことが求められています。

原園、高温、低温、塩基集積などの環境ストレスに強くなることも明らかになってきています。一方、過剰な栄養があると宿主（植物）から栄養を受け取ることがなくなり、植物と菌根菌の共生関係を弱くすることも判明しています。地域内有機物資源を活用することは、植物と微生物の力を引き出し、購入肥料を削減できるなど経営に資するものです。これらの農法に各地で試験圃場に取り組み、経験を共有していきます。アグロエコロジーはこれらの農法に加え、食べる人、研究者、流通業、行政も含め、自らの経験を共有して行くことも含んでいます。

6/10



田んぼの除草対策に乗用の除草機を導入。田植え後2回程度かけると除草剤の必要はなくなる

5/22



ライ麦を押し倒してマルチにします。倒す時期が早いと立ち上がることもある

## 農民連フラッシュ flash

### 原発ゼロオンライン学習会

7月19日、オンラインで「福島原発事故救済と原発ゼロを目指すオンライン学習会」が開催されました。講師として、生業訴訟弁護団事務局長・馬奈木徹太郎さんを招いて、「生業訴訟 最高裁勝利に向けた闘い」というテーマで講演を行っていただきました。県内だけでなく全国から25以上の会場が参加し、理解を深めるとともに、改めて署名活動などへの意欲を高めました。



### 苦労はあっても母親大会はいいね

7月4日第63回福島県母親大会が初めてオンラインで開催され、県内36回線、300人の参加がありました。復興支援バンド「縁屋」の演奏に始まり、ショートムービー「ふくしま2021春—福島の実状と課題—」の上映、各地からの運動交流を行い、大会宣言、放射能汚染水海洋放出反対、コロナ対策とオリンピック開催中止を求める特別決議を採択しました。



### 太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 福島市
- ② 約2000～3000㎡の遊休地
- ③ 日当たりがよい
- ④ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地
- ⑤ 賃貸条件：100円/坪（年）

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。



#### 【連絡先】

福島農民連産直農業協同組合 担当：佐々木健洋  
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804  
メールアドレス：stake@vmail.plala.or.jp